

スキルアップ講習会

iPhone の初歩の基本操作と文字入力

テキスト

広島市視覚障害者情報支援センター

2018.06.03

使用機器について

iPhone 5 s ～ 8 (iOS11 以降)



目次

iPhoneに触れる.....	4
各部の位置、使い方を知る.....	4
Siriを体験してみよう.....	4
VoiceOverについて.....	5
1. VoiceOverを知ろう.....	5
2. VoiceOverの設定方法.....	5
3. VoiceOverの解除方法.....	5
4. Siriによるオン/オフ.....	6
5. VoiceOverのまとめ.....	6
基本ジェスチャー練習.....	6
1. ダブルタップの練習.....	6
2. 2本指ダブルタップの練習.....	6
3. 右フリックの練習.....	7
4. 左フリックの練習.....	7
5. 3本指左右フリックの練習.....	7
6. スプリットタップの練習.....	7
応用練習.....	7
1. ホーム画面.....	7
2. アプリを起動.....	8
3. フリックからアプリを起動.....	8
4. タッチからアプリを起動.....	8
5. 電話を受ける.....	8
6. 電話をかける.....	9
7. ボイスメモで録音する.....	9
8. ボイスメモを再生する.....	10
9. 音声文字入力.....	10
10. キーボード文字入力.....	10
文章の入力と編集.....	11
キーボードの種類.....	11
キーボードでのかな漢字入力.....	12
1. ダブルタップによる入力.....	12
2. スプリットタップによる入力.....	12
3. フリック入力.....	13
4. メモアプリを使って、入力の練習をしましょう.....	13
5. かな文字を入力してみます.....	13
音声により入力.....	14
文字列の編集.....	14
Siriを使ってみよう.....	15
iPhoneを便利に使う.....	17

1. 2本指タップ.....	17
2. 2本指上下フリック.....	17
3. 3本指ダブルタップ.....	17
4. 3本指トリプルタップ.....	18
5. ローターと上下フリック.....	18
6. 4本指ダブルタップ.....	18
7. 使いやすくする工夫.....	18

iPhone に触れる

各部の位置、使い方を知る

ここでは iPhone の各部に触れて構造を理解します。

iPhone 6 iPhone 6 s iPhone 7 でご説明します。視覚障害のある方に触ってもらいながらサポーターの方が説明してあげてください。

まず iPhone を片方の手で持ってみましょう。その際しっかり握りすぎて、タッチパネルまで指が回ると、誤作動してしまうこともありますので、タッチパネルの操作領域を教えてあげてください。

ではスイッチやボタンに触って順番に位置を確認していきましょう。

表側のタッチパネルの下にある丸いボタンがホームボタンです。ホームボタンを押すといつでも最初のホーム画面に戻ります。

左横の1番上にはサイレントスイッチがあります。切り替えるとマナーモードになり着信音や通知音がなくなります。

サイレントスイッチの下には音量ボタンが2つあり、上のボタンを押すと音量が上がり、下のボタンを押すと下がります。

面側の上部には電話の音を出すレシーバーの凹みがあります。その凹みの少し下から丸いホームボタンの間が画面、つまりタッチパネルの操作領域となりますので目印にすると良いでしょう。

iPhone 5 では上部右側に、iPhone 6 では右横にスリープボタンがありますこれを押すとディスプレイが消えてスリープ状態になり、画面に触れても反応しなくなります。

iPhone 6 では本体下の左側にはイヤホンを差し込むジャックがあります。その右には電源ケーブルを差し込むコネクタがあり、充電するときに使います。

iPhone 7 では本体下の左側にイヤホンを差し込むジャックがありません。電源ケーブルを差し込むコネクタに付属されているアダプターを差し込んでイヤホンを使います。スピーカーとマイクも下側にありますから一応確かめて指でふさがないように注意してください。

最後に裏面も触ってみましょう。上のほうにあるのがカメラです。

Siri を体験してみよう

音声アシスタント Siri

Siri は iPhone についている音声アシスタントで、音声による操作や文字の入力、検索などを行うことができる機能です。

Siri はとても簡単に使えます。いつでもホームボタンを長押しするだけ。ポポンとなったら iPhone に話しかけてください。話しかける内容は、明日の天気は、外の気温は、タイマーを3分間セット、など何でも結構です。

Siri は視覚障害がある方が iPhone を使う際に大変有効なツールです。いろいろ試してみてください。ただし Siri を利用するには iPhone がインターネットに接続されている必要

がありますのでご注意ください。

VoiceOver について

1. VoiceOver を知ろう

VoiceOver は画面読み上げ機能です。

ここではサポーターの方に向けて VoiceOver の概要についてご説明します。

VoiceOver をオンにすると iPhone の操作方法が大きく変わってしまうので、設定を行う前に基本的なことをしっかり理解しておきましょう。

操作方法が変わる点は大きく 3 つあります。

1 つ目は VoiceOver をオンにするとタップして選択した項目を枠で囲むカーソルが現れ読み上げる事です。

2 つ目はカーソルで選択した項目を実行するには画面をダブルタップすることです。全ての操作はカーソルで選択してからダブルタップして実行します。

3 つ目は上下スクロールや左右の画面移動が、1 本指フリックから 3 本指フリックに変わることです。

2. VoiceOver の設定方法

ここではサポーターの方に向けて VoiceOver の設定方法を説明します。

まずホーム画面から設定ボタンをタップします。

次に設定画面で一般をタップします。

一般画面でアクセシビリティをタップします。

アクセシビリティ画面で VoiceOver をタップします。

VoiceOver のスイッチをタップしてオンにします。

VoiceOver をオンにすると iPhone の操作方法が大きく変わります。

3. VoiceOver の解除方法

ここではサポーターの方に向けて VoiceOver の解除方法を説明します。

解除方法は設定方法と同じ手順ですが、選択した後に画面をダブルタップする必要があります。

まずホーム画面から設定ボタンをタップして選択し、読み上げられたらダブルタップします。

次に設定画面で一般をタップして選択し、読み上げられたらダブルタップします。

一般画面でアクセシビリティをタップして選択し、読み上げられたらダブルタップします。

アクセシビリティ画面で VoiceOver をタップして選択し、読み上げられたらダブルタップします。

VoiceOver のスイッチをタップして選択し、読み上げられたらダブルタップしてオフにします。

4. Siriによるオン/オフ

ここでは VoiceOver を Siri で設定したり解除したりする方法を説明します。

Siri を使えば VoiceOver のオンとオフを簡単に切り替えることができます。

まずホームボタンを長押しして Siri を呼び出します。

ポポンとなったらマイクに向かって「VoiceOver オン」と話しかけると「はい VoiceOver をオンにしました」と読み上げて、VoiceOver が設定されます。

VoiceOver をオフにするには Siri を呼び出してから「VoiceOver オフ」と話しかけると「はい VoiceOver をオフにしました」と読み上げて VoiceOver が解除されます。

5. VoiceOver のまとめ

VoiceOver の説明は理解できましたか。

VoiceOver はオンにした途端に普段と違う操作になるため途惑ってしまう方も多いようです。

VoiceOver をオンにすれ前にもう一度おさらいしておきましょう。注意する点は3つです。

- 1 タッチしてカーソルで選択してからダブルタップで実行する。
- 2 スクロールは1本指から3本指フリックになる。
- 3 すぐに解除したいときは Siri を呼び出し、「VoiceOver オフ」と話しかける。

また VoiceOver の設定解除方法には、ホームボタンを続けて3回押すショートカットを使う方法もあります。

基本ジェスチャー練習

1. ダブルタップの練習

ここではダブルタップの練習をします。

ダブルタップとは1本指で素早く画面をトントンと2回軽く叩くジェスチャーです。

強く押し込む必要はありません。パソコンのダブルクリックを指で行うイメージです。

画面を1本指でタッチしながらなぞっていくと、その下にあるボタン名やテキストが読み上げられます。

目的の項目を探してそれを実行したいときにダブルタップを使います。

2. 2本指ダブルタップの練習

ここでは2本指ダブルタップの練習をします。

2本指ダブルタップは2本の指で同時に画面をトントンと2回軽く叩くジェスチャーです。素早く2度同じ場所をタップするようにします。

この時指を揃えすぎると1本指と誤認識されることがありますので注意しましょう。

2本指ダブルタップはアクションを開始、または停止する際に使います。

例えば電話に出たり電話を切ったりする時や、音楽やビデオの再生停止、ボイスメモ録音の開始停止などに使います。

3. 右フリックの練習

ここでは右フリックの練習をします。

フリックの操作はスワイプと表現されることもありますがこのアプリではフリックと表現します。

1 本指で画面を右方向へスッと弾くように動かして離します。指の移動は早く短めにします。

ゆっくりするとタッチやドラックと認識され別の操作になってしまいます。

右にフリックすると選択中の項目から1つ次の項目へ進んで読み上げます。

4. 左フリックの練習

ここでは左フリックの練習をします。

1 本指で画面を左方向へスッと弾くように動かして離します。指の移動は早く短めにします。

ゆっくりするとタッチやドラックと認識され別の操作になってしまいます。

左にフリックすると選択中の項目から一つ前の項目へ進んで読み上げます。

5. 3本指左右フリックの練習

ここでは3本指左フリックまたは3本指右フリックの練習をします。

3本の指で画面をスッと刷くように動かして離します。

指は揃えず少し開いた方が良いでしょう。また指は縦にそろえたほうが良いでしょう。

1 本指でのフリックと違い、指を置いた後ゆっくりと指を動かしても認識します。

ホーム画面等作業に隠れたページがあるときに左へフリックすると次のページへ移動し、右へフリックすると前のページへ移動します。

6. スプリットタップの練習

ここではスプリットタップの練習をします。

1 本指で画面にタッチしたまま離さずに、もう一本別の指で画面をタッチするジェスチャーです。

例えば人差し指でタッチしている場合は中指や親指、あるいは反対の手の指で画面をタッチします。

スプリットタップはダブルタップと同じように選択した項目を実行するもう一つのやり方です。画面から指を離す必要がなくダブルタップより素早く操作できるので便利です。

応用練習

1. ホーム画面

ここではホーム画面の説明をします。

ホーム画面はiPhoneを操作する最も基本となる画面で、ホームボタンを押すことでも戻ることができます。

1本指で画面を擦って読み上げながらどこにどんな項目があるかを確認してきましょう。ホーム画面の1番上にはステータスバーがあり、電波状態、現在時刻、バッテリー残量等が表示されています。

画面中央にはアプリのアイコンが並んでいます。iPhoneはアプリをインストールすることで自分の使いたい機能を追加していくことができ、それらのアプリを起動するためのアイコンが横に4つずつ配置されています。

ホーム画面の1番下のドックと言うエリアには電話メール等よく使うアプリのアイコンが4つ配置されています。

インストールされたアプリが増え1画面に表示できなくなると右側に新しいホーム画面のページが作られます。

ホーム画面のページを移動するには3本指で左か右にフリックします。

またドックのすぐ上に並んでいる丸いドットの列を選択し、上または下に一本指フリックすることでもホーム画面を移動することができます。

ドックに配置されているアプリはページが移動しても変わる事はありません。

2. アプリを起動

起動ここではアプリを起動する練習をします。

アプリを開くには左フリックもしくは右フリックでアプリを1つずつ読み上げて目的のアプリを探す方法と、一般指でタッチして画面を擦りながら目的のアプリを選択するやり方があります。

また選択したアプリを起動する方法にはダブルタップとスプリットタップがあります。カーソルの移動とアプリの起動方法は自分の使いやすい方を選ぶと良いでしょう。

3. フリックからアプリを起動

ここでは左右フリックで目的のアプリを探してダブルタップで起動する練習をします。

ホーム画面を1本指で触れて、右または左フリックしていくと、アプリ名が1つずつ読み上げられますから目的のアプリが見つかったら画面をダブルタップして開きます。

4. タッチからアプリを起動

ここではタッチして後で指を離さず画面を探りながら目的のアプリを探して、スプリットタップで起動する練習をします。

1本指で画面を擦ると選択されたアプリ名が1つずつ読み上げられますから、目的のアプリが見つかったらその指を画面から離さずに、もう1本の指で画面をスプリットタップして開きます。

5. 電話を受ける

ここでは着信があったときに電話を受ける練習をします。

着信があると連絡先に登録済の番号なら名前を読み上げます。電話を受けるには次の2つの方法があります。

- 1 画面を2本指でダブルタップする。
 - 2 応答ボタンを選択して画面を1本指でダブルタップする。
- 通話終了後電話を切るには2本指でダブルタップします。

6. 電話をかける

ここでは電話をかける練習をします。

まずホーム画面下にあるドックから電話アプリを起動します。

電話アプリ画面の1番下にある5つのタブの中から電話をかける方法を選びます。ここでは履歴、連絡先、キーパッドから電話をかける方法を説明します。

1 履歴から電話をかける。発信着信履歴を確認して電話をかける方法です。画面下のタブの中から履歴をダブルタップします。履歴リストから相手を選びダブルタップすると電話をかけることができます。通話終了後電話を切るには2本指でダブルタップします。

2 連絡先から電話をかける。あらかじめ登録されている連絡先リストから電話をかけます。画面下のタブの中から連絡先をダブルタップし、相手を選びダブルタップすると電話をかけることができます。

3 キーパッドから電話をかける。テンキーを表示させ、直接電話番号を入力して電話をかける方法です。画面下のタブの中からキーパッドを開き、数字ボタンを選んでダブルタップし、電話番号を入力（177を押して天気予報を聞くなど）してから、発信ボタンをダブルタップすると電話をかけることができます。このほかにもよく使う項目に連絡先を登録しておいて、電話をかける方法もあります。また留守番電話タブを開くと留守番電話サービスに接続します。

7. ボイスメモで録音する

ここではボイスメモを使って音声を録音する練習をします。

今から説明する手順で操作してみましょう。

まずボイスメモ起動し画面中央にある録音ボタンを探してダブルタップすると録音が始まります。

次に同じボタンをもう一度ダブルタップして一時停止させてみましょう。

今度は2本指ダブルタップで録音を開始してみましょう。停止する時も2本指ダブルタップを使います。

最後に録音を完了します。録音ボタンの右にある完了ボタンを探してダブルタップします。

警告が出てきて録音したボイスメモの削除、保存、タイトルの編集をすることができます。

録音内容にタイトルをつける文字入力の方法は後ほど練習します。

録音内容を保存するには保存ボタンをダブルタップし、ボイスメモを保存ウインドウで保存をダブルタップします。

練習用画面ではボイスメモを立ち上げた状態からスタートします。

8. ボイスメモを再生する

ここでは録音したボイスメモを再生する練習をします。

今から説明する手順で操作してみましょう。まずボイスメモ起動し、再生したいメモのタイトルをダブルタップします。再生ボタンを探してダブルタップすると再生が始まります。再生中にもう一度ダブルタップすると停止します。右下の練習へを選択してダブルタップすると練習画面に進んで練習できます。

9. 音声文字入力

ここでは音声による文字入力を練習します。

音声入力は最も簡単な文字入力方法で iPhone に話しかけるだけでその内容を文字に変換してくれます。

メモアプリを使って次の手順で操作してみましょう。

まずホーム画面からメモアプリを起動し画面右上の新規ボタンをダブルタップします。すると画面の上半分はメモ入力するテキストフィールドが表示され、画面の下半分には入力用のキーボードが表示されます。

キーボードの左下のほうに配置されている音声入力ボタンをダブルタップし、ポンとチャイム音がなると録音状態になります。

マイクに向かって「今日は良いお天気です。」と話しかけてみましょう。話終えたら2本指でダブルタップするとポンとなって挿入された今日は良いお天気ですと入力された内容を読み上げます。

画面右上は新規でなく完了ボタンになっていますのでダブルタップすると入力されたテキストが保存されます。

10. キーボード文字入力

ここでは画面上に表示されるオンスクリーンキーボードによる文字入力を練習します。

オンスクリーンキーボードにはいくつかの種類があります。

ホーム画面からメモアプリを起動し、新規をダブルタップします。

画面の下半分にキーボードが表示されるので左下にある次のキーボードボタンを選択します。

画面をダブルタップしたまま指を離さずに上下にドラックすると日本語かな、日本語ローマ字、絵文字、イングリッシュ US、の順番に読み上げられます。

日本語ローマ字での文字入力で「良い天気」と入力する場合で説明します。

キーボードをドラッグしながら「Y」を探して、見つけたらダブルタップします。

高い声で「Y」と読み上げられたら同様に「O」「I」を入力します。

キーボード上部に漢字変換候補が表示されるので改良の良と言う漢字の説明から良いを選択してダブルタップします。

同様に「T」「E」「N」「K」「I」と入力し変換候補から天気を選択して、ダブルタップします。

左下にあるその他ボタンを押すと数字や句読点記号等のキーに切り替えることができるので丸を入力します。

では練習してみましょう右下の練習へをダブルタップしてください。

英字の English(US)キーボードの場合もアルファベット配列的には同じです。順には並んでいませんので、慣れない間はゆっくり文字を探して使用してください。

・入力文字は、すべて半角文字になります。ID やパスワードの入力時には自動的に切り替わりますのでまったく使わないわけにはいきません。少しずつでも慣れてください。

以上が基本のジェスチャー練習です。次の章は、iPhone の文字入力で良く使われている日本語かな入力キーを使って、より詳しい文章の入力と編集方法を練習します。

文章の入力と編集

文章の入力には、キーボード入力か音声入力を使います。

キーボードは「日本語かな」「日本語ローマ字」「英語」「絵文字」などがあり、切り替えて使います。

設定で使うキーボードを選べますが、今回は「日本語かな」を中心に使い方を練習します。

キーボードの種類

日本語かなキーボードの概要を説明します。

4行5列のキーの配列になっています。

画面の下をなぞって、「あかさたな」と読み上げれば、「日本語かな」キーボードになっています。

中央の3列（2列、3列、4列）が50音キーです。上段から「あかさ」、「たなは」、「まやら」、最下段の中央は「わ」のキーという配置です。

「あ」のキーを選択して、ダブルタップを繰り返すと「い」「う」「え」「お」と順に切り替わり、該当の文字でストップすると読み上げた文字が入力されます。

「わ」のキーは「わ」「を」「ん」の3文字です。

「わ」の左隣の「濁点」「半濁点」「小文字」の入力では、-例えば、「ビ」を入力する場合、まず、「ひ」と入力した後、左下の「小文字、濁点、半濁点」キーをダブルタップすることにより、「バ」となります。さらに、ダブルタップすることによって「ば」となります。

拗音の小文字の「ゃ」「ゅ」「ょ」も、濁点の場合と同じように、「小文字、濁点、半濁点」キーを用いることによって拗音となります。「

わ」の右側のキーは読み上げられませんが、「、「」「。」「?」「!」を入力するキーです。

50音の右側の5列目には、上から「削除」「空白」「改行」になっています。「

削除」キーは、挿入ポイント（編集ポイント、縦棒カーソル）の左側の文字を一文字削除します。

「空白」キーは、スペースを入力します。文字を入力したあとは、変換候補を切り替える「次候補」に変わります。

「改行」キーは、次の行に改行します。文字を入力したあとは、「確定」のキーに変わります。

50音の左側の1列目は、上から「完了」「逆順」「モード切替」と半分の大きさの「次のキーボード」「音声入力」の二つのキーが並んでいます。

「完了」キーは、同じキーで入力する文字が続く場合、1文字送ります。（1文字ずつ確定するのと同じ結果です。）

「逆順」キーは、テンキー入力の場合、「あいうえお」の順に候補が現れますが、このキーを押すと、「あいうえお」が「おえういあ」の逆順になります。

「モード切替」キーは、入力モードを変更します。「その他文字」はアルファベットの入力モード、「その他数字」は数字と記号の入力モード、「その他かな」はかな入力モードとなります。「次のキーボード」は、キーボードをタイプを切り替えます。「音声入力」キーは、音声入力を開始するときに使用します。

キーボードでのかな漢字入力

キーボードでの入力には、タッチの方法の違いで、「標準入力モード」「タッチ入力モード」「ダイレクトタッチ入力モード」の3種類があります。

モードを変えるときには、ローターを使用して、「入力モード」に合わせ、上下スワイプで目的のモードに合わせます。本講習会では、「標準入力モード」のみで練習を行いますので、使い慣れてきたら他のモードを試してください。

まず文字をタップして探します。ダブルタップした時に、読み上げた文字が入力されます。

1. ダブルタップによる入力

例えば、「う」を入力したい時は、「あ」に一度触れて「あ」と読み上げるのを確認したら、画面のどこでもいいので、タタ、タタ、タタ、とダブルタップを3回行ないます。ダブルタップするごとに、あ、い、う、と読み上げるはずですが、慣れないうちは、日本語入力はこの方法がおすすめです。

2. スプリットタップによる入力

1つの指で「あ」に触れたままで、他の指で画面のどこかを、タ、タ、タ、と3回タップすると「う」が入力されます。このとき「あ」に触れている指がずれないように注意する必要があります。

3. フリック入力

文字をホールド（約1秒、ダブルタップ&ホールド）すると、効果音が鳴って、上下左右に割り当てられた文字が表示されます。

左、上、右、下の順に時計回りで「い段」から「お段」が表示されます。その方向にフリックするか、指を滑らせて読み上げられたところで指を離すと入力されます。

標準入力モードでも指を離したタイミングで文字が入力されるので注意してください。

4. メモアプリを使って、入力の練習をしましょう

ホームボタンを長押しすると、「ピピン」と Siri が応答、「メモを起動」と話しかけるとメモアプリが起動します。

「新規メモ」まで右スワイプし、ダブルタップ。（「新規メモ」「先頭に挿入ポイント」と応答）。ダブルタップすることで、挿入ポイントが「先頭」から「末尾」、「末尾」から「先頭」に切り替わります。

5. かな文字を入力してみます

例「今日は良い天気です」

文字を入力すると、iPhone がいくつかの変換候補を提示します。

下スワイプで順に変換候補が読み上げられ、上スワイプで候補が逆順で戻ります。該当する候補があれば、ダブルタップで確定され、メモに入力されます。なければ文字入力が続けます。

文字数が増えると候補が変わっていき該当する候補が出た段階で確定します。これはローターの機能で「自動テキスト読み上げ」に設定するとこの機能が使えます。ひらがな入力を行うと、自動的にこの機能が設定されます。

右中段の「次候補」キーをダブルタップすることによって、変換候補が読み上げられます。逆順はできません。必ず、確定・入力は「確定」キーのダブルタップで行います。

英字の入力。左下の「モード切替」キーに触れると、現在がかな入力モードの場合、「その他文字」と読み上げられます。「その他文字」キーをダブルタップすると、英字に切り替わって「その他数字」と読み上げます。

モード切替キーは、現在の入力モードでなく、次の入力モードを読み上げることになっていますので、注意してください。再度、左下の「その他文字数位」キーをダブルタップすると、「その他かな」と読み上げられ、数字モードに切り替わります。

数字の入力。

1回目のタップでそれぞれの数字が入力され、2回目以上のタップを行うと、記号が入力されます。

英字・数字は変換をせずに、「確定」すると、半角文字が入力されます。どうしても全角にしたい場合変換候補で全角文字を選択してください。

数字については変換候補の読み上げで全角半角の区別がないため判断できません。Web では、半角英数字の入力を要求されることが多く、全角英数字が求められることは少ないです。

全角が半角か読み上げで判定したい場合は、日本語の読み上げでは判別できませんので、言語をローター機能でEnglish(US)にすることによって判別します。

ローターのカテゴリーを「文字」に合わせて、上下スワイプで一文字ずつ読み上げると、半角数字の場合、通常の英語で読み上げますが、全角数字の場合、「フル・ウィジット・ディジット・ワン」「フル・ウィツウ・ディジット・ツウ」「フル・ウィツウ・ディジット・スリー」と読み上げ、半角と区別できます。

挿入ポイント（入力ポイント）の移動。

ローターの移動単位を「文字」「単語」に設定します。上下スワイプを行い、挿入ポイントを移動させます。下スワイプによって読み上げた文字では、単語の次に挿入ポイントがあることに注意してください。

音声により入力

音声入力するには、キーボードの音声入力を探してダブルタップすると「ピン」となって音声入力が始まります。音声入力中は自動変換され何も読み上げられませんので、iPhoneを信頼して入力してください。連続入力は40秒間です。

途中で終わるには2本指でダブルタップします。音声入力終了と同時に入力された文字列が読み上げられます。キチンと修正した文章にしたい場合はある程度小刻みに入力した方が良いでしょう。長い文章では編集の確認と編集ポイントの移動に時間がかかり大変です。

音声入力を開始するもう一つの方法は2本指ダブルタップです。開始終了が同じ動作なので、こちらの方がやりやすいかもしれません。

音声入力を楽に使うには修正をしないで済むような使い方になります。たとえば使っていくと入力エラーが多い単語がわかってきますので、その単語だけはキーで入力すると修正が少なく済みます。また、自分だけのための文章とか、家族や友人などで誤変換の文章を正しく読み替えてくれたり、笑って許してくれる場合は、ちょっとしたメモなどは誤変換もそのまま利用すると楽に使えます。ストレスをためるより笑って便利に使いましょう。

文字列の編集

文字を「削除」するには、

挿入ポイントの移動の後、キーボードの右上の「削除」キーをダブルタップします。

削除された文字を、通常の読み上げより少し低音の音声で読み上げられます。

削除キーをダブルタップ&ホールドすると、挿入ポイントから文字が順次削除されます。指を離すと、削除が中止され、削除した最後の数個の文字列を読み上げます。

入力や削除を取り消すには、取り消し操作（誤って削除した場合）をします。入力した文字列が間違っていた場合や誤って文字列を削除した場合などは、その操作の取り消

し操作を行うと、直前の状態に戻ります。方法としては、iPhone を小刻みに振ると、「取り消す。入力」と読み上げられますので、左右フリックによって「取り消す」ボタンまで移動し、ダブルタップすると取り消すことができます。

文字列のコピー・切り取り・貼り付けなどの編集操作をします。

ローターの編集機能を使って、文字列を選択し、「コピー」「カット」「ペースト（貼り付け）」を行うことができます。

先ほどのローター機能を使って、編集ポイントを選択したい文字の先頭まで移動します。文字列を選択するには、ローターをテキスト選択に合わせ、上下スワイプで「文字選択」「行選択」「ページ選択」「すべてを選択」の選択単位から選んで、右スワイプを行い、選択したい文字列の最後の文字まで移動するとその間が選択されます。選択した文字列を確認するには、3本指タップをすると「選択中の・・・」と読み上げられます。

カット・コピー・ペーストを実行するには、ローターを「編集」に合わせ、上下スワイプによって、目的とする編集操作（カット、コピー）を選択します。ダブルタップすると、実行して操作内容が読み上げられます。

カット・コピーした文章をペースト（貼り付け）するには、コピーした文字列は挿入ポイントの右側に挿入されるので、それを念頭に挿入ポイントに移動します。ローターを「編集」に合わせ、上下スワイプによって、ペーストを選択して、ダブルタップすると、実行して操作内容が読み上げられます。

Siri を使ってみよう

- 設定
 - ボイスオーバー オン/オフ
 - Wi-Fi をオンにして (Wi-Fi がオンになる)
- 電話
 - ～さんに電話
 - スピーカーで〇〇に電話
 - ハンズフリーで〇〇に電話
- メッセージ
 - ～にメッセージ、すぐ行きます
 - メッセージを読んで
 - 昨日〇〇からきたメッセージを読んで
 - 〇〇に今すぐ行くと伝えて
 - 〇〇さんに「今すぐ行く」とメッセージを送る
- メール
 - 今行きますとメールして
 - あと〇分後に到着しますと〇〇にメールして

○○宛てにメール画面を作成して

- カレンダー
 - 9時に会議を設定
- アラーム アラームをすべてOFFにして
 - 3分後にタイマー
 - 7時に起こして
- リマインダー
 - 午後5時に病院に行くことを思い出させて
 - 21時にテレビを見るとリマインド
 - 13時に電話をするとリマインド
 - 〇時にテレビを見るとリマインド
- メモ帳
 - とメモ（メモアプリに○○とメモされる）
 - メモする ボールペン購入
- SiriでiPhoneの位置を確認
 - Hey Siri どこにいるの
 - （電源接続時自動ON返答する）
- Siriでの問いかけの例（追加）
 - ・ FaceTime ～と Facetime
 - ・ Skype ～さんと Skype
 - ・ App Store App Storeで○○を探して（App Storeで○○アプリを検索する）
 - ・ いま平成何年？
 - ・ 1ポンドは何グラム？
 - ・ 1ドルはいくら？
 - ・ 東京の人口は何人？
 - ・ スカイツリーの高さは？
 - ・ $7+7\div 7+7 \times 7-7=$
 - ・ 今私はどこにいるの
 - ・ 4500円の20%は
 - ・ ～の画像を検索
 - ・ 今日傘は必要？
 - ・ 今日の天気は
 - ・ 今日の野球の結果は
 - ・ ここから○○までの道順
 - ・ ○○から○○までの行き方を教えて
 - ・ 車で○○までの道順
 - ・ 徒歩で○○までの道順
 - ・ 目的地まであと何分？
 - ・ ○○（曲名）の曲をかけて
 - ・ ○○（ジャンル）の曲を流して
 - ・ ○○（歌手名）の曲を流して

- ・～でピザが食べたい
- ・〇〇と検索して
- ・〇〇を調べて
- ・今日の日付を教えて
- ・今日は平成何年？
- ・今日は西暦何年？
- ・今年（来年・去年）の干支は？
- ・早起きは三文の徳とはどういう意味？
- ・付度とはどういう意味？
- ・〇〇の住所は？
- ・〇〇とは
- ・〇〇の意味

iPhone を便利に使う

さらに便利に使えるジェスチャーや iPhone をもっと使いやすくする設定方法などを紹介します。

1. 2本指タップ

ここでは2本指タップの説明をします。

2本指タップは2本指で画面をトンと一回軽く叩くジェスチャーです。指の間を少し開くと良いでしょう。2本指タップをすると読み上げ中の音声を一時停止します。再開したいときはもう一度2本指でタップします。

2. 2本指上下フリック

ここでは2本指上下フリックの説明をします。

2本指上下フリックは2本指で画面を上または下方向へスーッと刷くように動かして離します。指の移動は早めにします。

上にフリックすると画面の1番上の項目からすべての項目を順番に読み上げていきます。下にフリックすると現在選択中の項目からすべての項目を順番に読み上げていきます。画面の構成を最初に把握したり選択項目が多い画面でまずは聞き流してあたりをつけるなどに利用すると便利です。

3. 3本指ダブルタップ

ここでは3本指ダブルタップの説明をします。

3本指ダブルタップは、3本指で画面をボタンを2回軽く叩くジェスチャーです。素早く2度同じ場所をタップするようにします。指は揃えず少し開いた方が良いでしょう。

3本指ダブルタップは VoiceOver の読み上げをオフにしたいときに使います。

オンにしたいときはもう一度3本指でダブルタップします。

2本指タップとの違いは、2本指タップは読み上げ中の項目の音声を一時停止するのに対して、3本指ダブルタップはVoiceOverの読み上げを全てオフにします。VoiceOverが急に読み上げなくなった場合はこのジェスチャーがオンになった可能性がありますので、注意しましょう。

4. 3本指トリプルタップ

ここではスクリーンカーテンの説明をします。

3本指でトリプルタップすると画面が全く表示されなくなるスクリーンカーテンと言う機能がオンになります。もともとは画面表示の必要がないユーザが使うことで、無駄な電池消費を防ぐことなどができる機能です。

解除するには再度3本指でトリプルタップします。

意図せずに画面が表示されず読み上げだけが機能している場合はスクリーンカーテンがオンになっている場合がありますので注意しましょう。

5. ローターと上下フリック

ここではローターの説明をします。

2本指でつまみを回すように時計回り、または半時計回りに回転させると、読み上げ速度、音量、ヒント、コンテナ、見出し、文字、単語、と読み上げていきます。

それぞれ移動した内容で、上または下にクリックすることで操作します。例えばローターが読み上げ速度に選択されている場合、上にフリックするたびに早く読み上げ、下にフリックするたびに遅く読み上げるようになります。

単語の場合は読み上げを項目ごとではなく、記載されている単語ごとに読み上げていきます。下フリックで進む、上フリックで戻る動作となります。文字の場合一音ごとに読み上げます。入力されている文字を1字ずつ確認する際に有効です。

またインターネットのページを閲覧している際には行、ホームコントロールが追加されます。

6. 4本指ダブルタップ

ここでは4本指ダブルタップの説明をします。

4本指ダブルタップは4本指で画面をトントンと2回軽く叩くジェスチャーです。少し難しいジェスチャーですが、4本の指をできるだけ同時に触れるようにすると良いでしょう。

4本指ダブルタップをするとヘルプを開始中と読み上げられてVoiceOverのヘルプモードになり、行ったジェスチャーの種類とその使い方を教えてくれます。

VoiceOverのヘルプを終えるにはもう一度4本指ダブルタップするとヘルプを停止中と読み上げて停止します。

7. 使いやすくする工夫

ここではiPhoneをさらに使いやすくする設定をご紹介します。

- 1 まず画面の回転を制限しましょう。画面の状態によって画面構成が変わってしまうと操作に迷ってしまいますので、初めから回転表示を制限しておくといいでしょう。
- 2 VoiceOverを簡単にオンオフする。
ホームボタンを素早く3回押すトリプルクリックでVoiceOverのオンオフが簡単にできるよう設定できます。ホーム画面から一般、アクセシビリティ、ショートカット、と順番に選んで行き、VoiceOverの項目にチェックを入れます。これでホームボタンをトリプルクリックするたびにVoiceOverのオンとオフを切り替えられます。
- 3 便利な設定で自分に合った設定に変更する。
アクセシビリティやVoiceOverの設定画面では、グレイスケール、色反転、ホームボタンの間隔、読み上げ速度、ズーム機能、より大きな文字、など便利な機能が付いていますから、必要に合わせて設定してみてください。
- 4 指紋認証でロックを解除する。
指紋認証機能が搭載されているiPhoneでは、ロック解除の際に、いちいちパスコードを入力する手間が入らず、素早く操作できるようになるのでパスコードを設定して、プライバシーやセキュリティを向上してはいかがでしょうか。ホーム画面から、設定、Touch IDとパスコード、と順番に進み、パスコードを入力して指紋を追加を選びます。ホームボタンに指を触れて離す作業を繰り返して、指紋を登録してください。登録は五つまでできます。登録が完了したら、登録した指でホームボタンに触れるだけで、ロックを解除できます。
- 5 アプリの配置を変える。
頻繁に使うアプリの配置を変更してもらうなどのちょっとした工夫でも使いやすくなります。アプリをダブルタップしたまま長押しし、指を離さず移動することでアプリの配置を変更できます。サポーターの方に手伝ってもらえると良いでしょう。
- 6 コントロールセンターを呼び出す。
画面の1番上のステータスバーにある項目をどれか選択してから、3本指で画面を上フリックすると、コントロールセンターが表示され、機内モード、Wi-Fi、画面横向きロック、などの設定をオンオフできます。設定を終えたらホームボタンを押すと元の画面に戻ります。

講習会資料おわり